

2017年9月28日(木)

2017年度 秋学期 労務管理論(谷本) 中間課題レポート執筆要項

締切：2017年12月21日(木) 事務室閉室時間(厳守)

提出先：今出川校地 商学部事務室(至誠館1階)

用紙：A4ワープロ用紙4枚以上6枚以下(手書き不可・片面印刷)。

課題：下記の課題図書について、以下の指示に従い指定された書式でレポートを執筆すること(配点30点)。

内容：課題図書より任意の章(終章を除く)をひとつ選び、①その章の選択理由を述べなさい。②内容を要約し、また、③内容に関連した他の文献・資料等を参考にして、その章から何を学び、何を考えたか自由に論じなさい。

【課題図書】

- ・澤田 幹・谷本 啓・橋場俊展・山本大造『ヒト・仕事・職場のマネジメント - 人的資源管理の理論と展開 -』ミネルヴァ書房, 2016年10月刊, 3000円+税。

【レポートの原稿について】

①書式(文書スタイル)

- ・用紙：パソコン・ワープロでA4版用紙を使用。
- ・余白部分：上30mm 下30mm 左30mm 右30mm 程度空ける。
- ・文字種とサイズ：明朝体系で10.5ポイント。
- ・ページ設定(1頁の桁数と行数)：1行40桁(字)で36行(ヨコ書き)。

②各ページには中央下部にページ番号を付すること。

③提出時には原稿に所定のレポート提出用の表紙をつけること(自作の表紙は不要)。また提出用表紙の論題名は選択した章番号、章のタイトルを必ず記入すること。章番号・章名が記入されていない場合は成績評価の採点対象としない。

④課題図書以外のレポート作成に利用した文献・資料等については、レポート本文末に参考文献一覧を付けること。ただし、最低でも『文献』(新書・文庫可)と「新聞・雑誌記事」(学術論文でも可)を各1編ずつ必ず参考にすること。インターネットのWebサイトのみを参考資料としたものは採点の対象としない。

※ 参考文献の表記方法は下記の通り(参考文献リストも評価要素として考慮します)。

- ・文献の場合： 著者名『文献名』出版社名, 出版年度。

(例) 玄田有史・曲沼美恵『ニート フリーターでもなく失業者でもなく』幻冬舎, 2004年。

・雑誌記事・論文の場合： 「記事名」『雑誌名』巻号（出版年月日）。

（例）「65歳雇用義務化への対応実務」『労政時報』第3649号（2005年3月11日）。

（例）「労働者派遣法の見直し」『読売新聞』（2007年12月6日朝刊）。

（例）「賃金規制が死亡率を上げる？」『週刊東洋経済』（2008年5月31日）。

・インターネットの場合： サイト名（サイトのURL）閲覧年月日。

（例）中央職業能力開発協会（<http://www.bc.javada.or.jp/index.html>）2017年3月25日閲覧。

⑤原稿本文の冒頭に各自でタイトル（自由・中央揃え）と学籍番号、氏名（右寄せ）を記入すること（目次の作成は任意とする）。

⑥執筆内容の各項目には見出しをつけるなどして区分できるよう工夫すること。

⑦インデント機能により本文1行あたりの文字桁数が40字を下回らないよう注意すること。

⑧締切日にレポートを印字・提出しようとする時に限って、原稿を保存していた記録媒体の破損やプリンターの故障などのアクシデントに見舞われます（マーフィーの法則）。データの保存には必ずバックアップをとり、またレポートの作成・提出は時間的余裕をもって行ってください。レポートは締切日1週間前から提出可能となります。なお、締切日以降の課題レポートは原則として一切受理しません。

⑨提出されたレポートが文献・資料・Webサイト等からの剽窃・盗作である、あるいは他の学生（先輩、友人など）のレポートを写したものであることが判明した場合、通常の試験と同様に不正行為があったものとして処理します（ただし参考文献一覧や脚注等で引用箇所や引用先を明記したものを除きます）。

⑩論理展開の必要に応じた（内容ごとの）「段落分けの出来ていない」レポート、あるいは「1～2文ごとに改行して行数稼ぎをしたような」レポート、Webサイトからのコピー&ペーストが大半を占めるレポートなど、書式・内容について著しく問題のあるレポートは採点の対象外とします（大学生としての良識を問います）。

⑪レポートを事務室に提出後、修正したレポートを再提出した場合（レポートを2部提出した場合）、いずれのレポートも採点対象としません（提出済レポートの加筆修正にあたります）。

⑫レポートの書き方などで分からないことがある場合、科目担当者（谷本）ないしは「ラーニング・コモンズ」のアカデミック・サポート（良心館3階）に相談すること。

⑬病気またはやむを得ない事由のために締切期日までにレポートが提出できない場合、「追試験」の実施基準に準じてレポートの提出期日を延長します（詳しくは大学ホームページや「Student Handbook」の121頁、123頁など、試験に関する注意事項を参照）。ただし、必ず提出締切時間までに提出先に連絡を取り指示を受けてください。

⑭余裕のある人はレポート本文末に別途、講義についての感想、意見、要望など自由にご記入下さい。講義を進める上での参考とさせていただきます（講義に関する批判でも構いません）。

以 上